機関構成終る

組合民主主義確立へ

生命と暮らし守るため闘おう

委員会が決意

組合役員の改選を終ると、三池労組はひき続いて八月二日組合会議室で委員会を開き、新年度の運動を進めるための機関構成を終った。先の定期総会で確立した活動方針をめざし、「闘うトリデを各職場に構築しながら、命と生活を守るために」こそ団結しなければならないが、そのためにもまず組合民主主義の強化が不可欠で、森田満明新組合長はこの日「全執行部がまず一致団結し、その闘いを前進させる活動の先頭に立つ」決意を披った。

七月三十日、組合役員選挙にひき続き開いた委員会は、同選挙結果を確認した後、次の通り新年度の闘いをすすめるための機関構成を完了した。(敬称は省略)

×

新執行部

組合長　森田　満明　専従
書記長　中原　一　右同
労働部長　田口　芳博　非専従
組織部長　芳川　勝　右同
厚生部長　松岡　大喜　右同
編集部長　杉本　一男　右同
会計監査　猿渡　孝良　右同

専門委員

監督員補佐員　村上　知行　右同
保安委員　藤末　成助　四山　黒田　勝儀　三川
法対担当　田中　精一　右同　浦川　秀雄　本所
(臨時執行委員で総務を兼務)　右同　安全推進委員　今村俊雄　四山

ほかに未決定がある。

また、職場分会でも新しい体制の確立をめざす努力がすすんでいて、近く完了することだろう。各分会は、それぞれいろんな困難な条件にぶつかっていて、新しい体制づくりも、それほどはかどっていない。努力を期待する。

×

なお、この日の森田新組合長の「決意表明」の内容は別項の通りである。

森田組合長　中原書記長　田口労働部長　芳川組織部長　松岡厚生部長　杉本編集部長　猿渡会計監査　野田(同上)　田中法対担当

組合長の決意表明

第七次石炭政策は、必ずしも実のあるものになっていない。

石炭政策の、第一次より第六次までの政府・自民党の施策は石炭ぶっつぶしに過ぎず、政府・独占の意図は労働者に対する生かさず殺さずの政策を強め、今も私企業体制の維持を押し進めようとしている。

わが国唯一のエネルギー資源である国内石炭二千万トン(年産)以上の生産体制と、新鉱開発による拡大生産、炭鉱労働者の労働条件の向上と保安確立、公社―公団―国有化の路線に向かって闘いを発展させなければならない。

行動方針にもとづく長期抵抗統一路線の実践課題である統一活動強化のためにも、また、職場における生命と暮らし、権利を守る闘いを強めるにも、共闘の輪を拡大する努力をつくしたい。

三池の闘いの輝かしい伝統を受け継ぎ、組合民主主義を確立し、闘う仲間との連帯を強め、微力ではあるが、全執行部が一致団結し闘いを前進させる活動の先頭に立つ覚悟である。

大牟田市役所前に掲げられた、石炭政策訴えるタレ幕。

政策闘争方針を論議

第七次答申、問題残す

炭労臨時大会

第七次石炭政策の答申をめぐって、これまでの下方修正論を克服し、実質的には「二千万トン以上」を含む方向が確立されたこと。「労働力確保」についても、「地下産業にふさわしい」労働条件の確保をめざし、こんで労資間で具体的に詰めていくけ」をめぐって、これまでの下方と重要な課題について一定の前進であるとの判断を示すとともに、要求全般からみるとなお多くの不満を残しているだけでなく、「石炭新時代」を迎え、「国内炭について、改めて総合エネルギー政策

八月十一日、札幌で開かれた。

×

さきに出された答申の内容については、例えば「国内炭の位置づ足がかりをきずいたこと、などな

等の観点から再評価を行ない、これを踏まえて国内炭の長期的生産維持のための諸対策の見直しを行なう……」ことを明記した「諮問の趣旨」に完全に沿ったものでない――との評価を行なっている。

さらに大会では、①今日までの闘争経過、②答申に対する評価、③今後の闘いの進め方、が論議された。

三池からは、森田組合長、中原書記長が出席。なお三十一日に委員会を開催して報告される。

あわや！天井崩落

落盤災害の教訓どこへ

八月三日、午後十時ごろ(二番方)三川鉱六十六卸九片貫通口で天井崩落事故が起こった。

崩落は、五回目の発破直後に起こり、およそ七メートルにわたって倒枠、九片ゲート坑道のベルトコンベアーが埋まり、払は中止された。幸い現場付近には労働者はいなかったので、あやうく災害は避けられたが、あわやと思わせる事故であった。

組合では八月六日、三川鉱と交渉。①崩落の原因を明らかにすること、②崩落防止の具体的な対策を示すこと、などの要求を行なった。三川鉱側は、「貫通口付近の天井の状態は良好であったので、枠の縛着のみで打柱を打たなかった。こんごは貫通時の企画図をつくり、具体的な対策をたてていきたい」との態度を示した。

組合としては、この崩落事故を重視し、去る六月十一日の同じく三川鉱七十卸の災害の教訓が生かされていないと判断、「各職場で一斉点検を強化するよう」呼びかけている。

北海道でも相つぐ災害

八月一日、炭鉱災害相つぐ住友石炭赤平鉱(北海道赤平市。大木英一社長)で、ガス突出による落盤が発生。そのためまた、三人の炭鉱労働者の命が奪われた。

死亡したのは掘進員の松本弘さん(47歳)ら三人で、一人が即死、ほかの二人が窒息死だった。

つづいて同月十一日(奇しくも吉田哲郎さんの命日と重なる)、こんどは三井砂川鉱(北海道空知郡上砂川町)で発破事故が起き、三井建設係員見習の根本良一さん(28歳)が罹災、死亡した。

なぜこうも、炭鉱で災害が続発するのか。

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033番
(53)3034番
編集兼発行人　甲斐　俊久
半年間1,200円　送料共

裁判公判日程のお知らせ

大災害裁判に関する二つの公判が次の日程で開廷します。

九・二八坑内火災裁判
十月一日午後一時から、福岡地裁で開廷。なお、吉田・嘉病院院長が、反対尋問で原告の患者個々人について証言。

三池大災害裁判
十一月二十日午前十一時から、同じく福岡地裁で。

お知らせ

▼…全国の働く仲間の皆さんをお願いして、ともに前進したく思います。

▼…なお、組合が設けている電話番号をお知らせしますと次の通りです。

市内電話
市外局番号―〇九四四
五三―三〇三三
五三―三〇三四

社内通用電話
四五七、五二八、七五七

右のうち夜間は、五三―三〇三三(市内)と七五七(社内)だけを使っております。

何かと三池労組へご用の方はどうぞ電話をご利用ください。

以上、よろしくお含みくださるようお願いいたします。

――編集部